

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度 2 分の 1 復元、複式学級解消
をはかるための、2020 年度政府予算に係る意見書

学校現場では、解決すべき課題が山積しており、子どもたちのゆたかな学びを実現するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。特に小学校においては、新学習指導要領の移行期間中であり、外国語教育実施のため授業時数の調整など対応に苦慮しています。ゆたかな学びの実現のためには教職員定数改善などの施策が最重要課題です。また、学校現場においては、長時間労働是正にむけて教職員の働き方改革がすすめられようとしていますが、なかでも教職員定数改善は欠かせません。

義務教育費国庫負担制度については、小泉政権下の「三位一体改革」の中で国庫負担率が 2 分の 1 から 3 分の 1 に引き下げられました。国の施策として定数改善にむけた財源保障をし、子どもたちが全国のどこに住んでいても、一定水準の教育を受けられることが憲法上の要請です。ゆたかな子どもの学びを保障するための条件整備は不可欠です。

よって、国会及び政府におかれては、地方教育行政の実情を十分に認識され、地方自治体が計画的に教育行政を進めることができるように、下記の措置を講じられるよう強く要請します。

記

- 1 計画的な教職員定数改善を推進すること。特別支援学級在籍の児童生徒が増加し、交流学級では 40 人を超える学級活動などが常態化しているため、特別支援学級の児童生徒を交流学級の在籍数として加えること。
- 2 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を 2 分の 1 に復元すること。
- 3 離島・山間部の多い鹿児島県において教育の機会均等を保障するため、国の学級編成基準を改めて、学校統廃合によらない複式学級の解消にむけて適切な措置を講ずること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出いたします。

令和元年 7 月 12 日

鹿児島県始良市議会議長 森川 和美

内閣総理大臣	安倍	晋三	殿
財務大臣	麻生	太郎	殿
総務大臣	石田	真敏	殿
文部科学大臣	柴山	昌彦	殿
衆議院議長	大島	理森	殿
参議院議長	伊達	忠一	殿